

覚醒

Awaking

進歩から進化へ。

神々のふるさと。美しき水の都。風流な歴史の地。

豊かさに抱かれたここ出雲に、1973年、小松電機産業は小さな一歩を踏み出しました。わずか工具箱1つで、農業用ポンプの修理を行っていたビジネスは、やがて、ポンプ販売、配電盤の製作、上下水道計装システムへと拡大することになります。

創業当初より、環境問題に的をしぼり、命の源である水に取り組む精神は、現在に至るまで何ら変わらず、人間・自然・科学の新しい関わりを見つめ続けています。

'85年、人や車を感知して瞬時に自動開閉する高速シートシャッター「門番」を、スタッフ一人ひとりの技術力と創造力を結集させて、日本で初めて開発・販売。マーケットをゼロから開拓したその実績は、

“中小企業研究センター賞”および“ニュービジネス大賞”を受賞し、大きな使命を担う商品であることが認識されました。

次いで'92年には、かねてより研究・開発に取り組んでいた上下水道計測・制御・監視システム「やくも水神」を発表。その後「NEWやくも水神」、さらに「パッケージ水神」とバージョンアップを重ね、科学技術庁第54回「注目発明選定証」を受証しています。

それは、真なるベンチャー精神に燃えて全スタッフが懸命に挑んだ、価値ある夢の実現です。

私たちの経営理念は、「おもしろ・おかしく・楽しく・ゆかいに」。

掲げた目的と目標を果たし、価値観さえも進化させて、常に新たなフィールドを創造しています。

キーワードは環境・健康・平和

先端技術で 社会の変革を 促す。

代表取締役

小松昭夫

Akio Komatsu

小松電機産業株式会社 代表取締役
HNS 人間自然科学研究所 代表
孔子文化大学 客員教授
受賞記録：1990 中小企業研究センター賞1991 ニュービジネス大賞
1992 優秀経営者顕彰 地域社会貢献者賞
1995 科学技術長官注目発明選定賞1996 地域活性化貢献企業賞
1944 島根県八束郡八雲村で生まれる。1963 島根県立松江工業高等学校機械科卒業。1981 シートシャッター開発。社是「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」制定。1985 シートシャッター「門番」開発、発表。全国展開。1992 韓国東友FA にシートシャッター「門番」製造技術無償供与。集落排水計画、制御、監視システム「やくも水神」発表。1995 集落排水計画、制御、監視システム「パッケージ水神」発表。ダイヤモンド社より「母なる中国」が出版され、軌跡が紹介される。1998 松江湖南テックパークに最新鋭のシャッター工場及び研究所棟を建設、竣工。
2004 訪中文化経済交流を実施。孔子文化大学客員教授に招聘される。

「環境」を通じて社会に貢献する

長引く不況からの脱出口が見えないまま、日本は21世紀を迎えました。社会全体に不安感や閉塞感が漂うなかで、よく耳にするのが「21世紀はどうなるでしょうか」という言葉です。

これに限らず、とかく日本人は「～はどうなるでしょうか」と聞くのが好きです。「景気はどうなるでしょうか」「売れ行きはどうなるでしょうか」「天気はどうなるでしょうか」。天気はともかく、社会の動きは人間の力で変えることが可能です。ですから大切なのは、「どうなるか」ではなく、「どうするか」なのです。この「するか」こそが、社会を動かしていくのであり、小松電機の大きな思想でもあります。

小松電機は1973年に創業した、いわゆるベンチャー企業です。私はベンチャー企業のことを、「先端テクノロジーを使ってビジネスモデルをつくり、社会変革を促す企業」と考えています。そこで当社では「環境」をキーワードに、いかに社会に貢献するかを考え、商品開発を行ってまいりました。

高速シートシャッター「門番」もその1つで、高い防寒性や防風性により、省エネの手助けをしています。もともと山陰の寒い冬をしのぐために開発された商品ですが、いまでは国内シェア50%、韓国をはじめ世界でも広く使われております。

「門番」は、「市場の創造」という意味でも、非常にベンチャー企業らしい商品だと思っています。スチール製シャッターしかなかった時代に、高速で開閉するビニール製シャッターをつくり、まったく新しい市場を生み出しました。また最近では高い防塵性や防虫性から、食中毒や異物混入が大きな問題となっている食品業界でとくに注目を集めています。

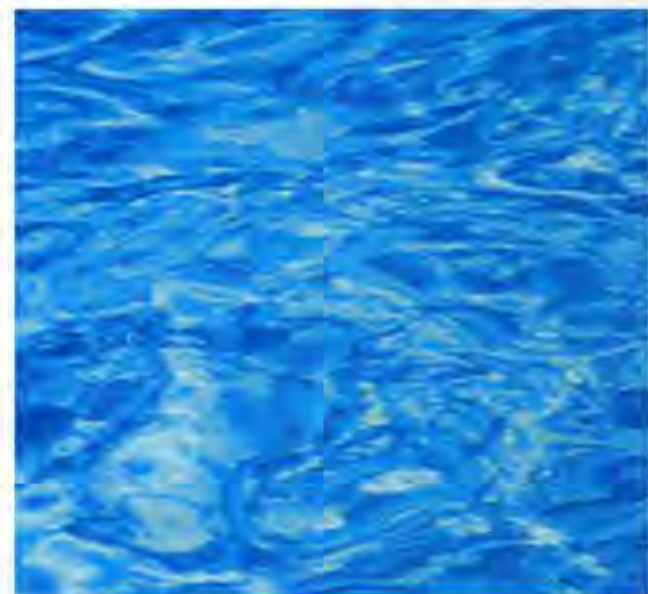
もう一つの主力商品である「やくも水神」は、「水の管理」が開発のコンセプトです。飛行機の発達やインターネットの普及により、世界は非常に狭くなりました。21世紀の日本は、極東の一島国ではなく、世界のなかで生きていかなければなりません。このとき重要なキーワードとなるのが、「水」だからです。

地球規模で見たとき、21世紀には、ますます人口が増えています。人間が生存するうえで、水は欠かすこと



ができません。20世紀は「油」をめぐる世界戦争が起りましたが、21世紀は「水」をめぐる争いが起きるとも言われています。

しかもいま、日本に限らず、世界中で水の汚染が進んでいます。鳥根県には尖道湖、中海という二つの湖がありますが、これらも例外ではありません。かつてのように住民が泳ぐことはなくなり、名物のシジミやスズキも減少しています。



こうした汚染を放置しておけば、ますます水をめぐる争いが起こる危険性は高まります。そうしたなか「やくも水神」は、ITを用いて安く安全な上水道を供給し、一方で使った水を安価にもとの状態に戻そうという発想から生まれたのです。

「水」については、地下ダムの整備にも力を入れています。これは現在、ほとんど利用されていない雨水を、住宅地や工業団地の地下に蓄えることで有効活用するシステムです。水不足への備えと同時に、大雨による河川の氾濫を防ぐ効果もあります。2002年ごろからITと結びつけることで、より効率的なシステム化を図る予定です。

これらの製品が、21世紀の水問題を解決する一助となることを願っています。今日の日本の繁栄をつくってきたベースがなくなったソ連の崩壊後、新しい枠組みというのがこれからどうなるのか、あるいはどういうふうにしていくのかというのが大きな問題になっていきます。そのなかでこれから日本の果たすべき役割というのは何か、人類の歴史から考えていきます。

「信用」に重きを置く経営

資本金わずか10万円でスタートした小松電機ですが、2001年現在、資本金1億円、年商42億円の企業に成長

しました。これは当社の「信用」に重きを置く経営が、評価されたのだと思っています。

今日に至る道のりは、決して順風満帆ではありませんでした。シートシャッターで初めて県外の企業と取引したときは、納入した30台すべてに問題があると、大変なクレームを受けました。それでもクレーム処理を通じて大きな信用を得られ、この信用が下請け会社や関連会社、さらには海外の取引先にまで広まり、最終的に数百億円の売上げに結びつきました。まさに「災い転じて福」で、その後も失敗をバネにしながら、信用を積み重ねてやってきました。この「信用の創造」なくして、今日の当社はなかったでしょう。

もう一つは、パートナーに恵まれたことです。シートシャッターの類似品は、他社からもたくさん出ています。しかし品質で「門番」に及ぶものは一つもない。それは核となるエンジン部分に、他社の優れた技術を用いているからです。



これはドイツでカメラ用に開発された特殊エンジンで、この技術導入なくして「門番」の開発はなかったでしょう。

他の製品や技術についても、優れたアイデアやノウハウを持つ外部の人や企業と、さまざまな協力関係を結んでおります。一つの会社、一人の人間だけでは、できることなど知れています。だからこそお互いの得意分野を生かしあう「分業」の発想が重要で、この傾向は社会が複雑化、高度化する今後、さらに高まるでしょう。



マイクロエンジン

この「分業」の発想に基づいて、優れた能力を持つ人や企業と、多くのネットワークで結びついていく。これが当社の目指すところで、その意味での本社機能は、21世紀には拡大よりも縮小の方向に向かっていくでしょう。その代わりネットワークを国内外にどんどん広げ、また社員には、分社化することで、その能力を存分に発揮してもらうことを考えています。

“企業”から“事業”へ

小松電機は当初、生家の納屋を作業所とする、まさに“家業”でした。それがしだいに仕事が増え、工場も大きくなり、“企業”へと成長しました。

私の考える“家業”とは、家族や自分が生きるためにやる仕事のことです。そして“企業”とは、最小の費用や時間で最大の効果や収益を考える利益至上主義です。

その先にあるのが、“事業”です。ここで言う“事業”とは、“家業”や“企業”が十分に繁栄を享受できる社会環境を整えていく仕事のことです。

21世紀の日本にとって、いちばん重要なものは何かというと、それは「平和」です。いま我々の食卓を見たとき、その70%は海外からの輸入品です。燃料にいたっては、100%を海外から調達しています。そうした生活スタイルを築くことで、我々は今日の繁栄を築いてきました。

しかし安定した食糧や燃料が供給されるには、なにより平和でなければなりません。海外諸国と衝突して、これらが輸入されなくなれば、日本は混乱状態になってしまいます。



「門番」「やくも水神」を中心とした企業活動に、「健康」と「平和」の事業活動を加え日々進化しています。

いまの日本にとって「平和」とは、たんなるお題目ではすまされない、重要な問題なのです。

しかも我が国には平和憲法があり、世界で唯一の被爆国です。核の悲惨さを、誰よりも知っています。そんな日本だからこそ、より有効に平和をアピールすることができます。

そこで、小松電機では、「門番」「やくも水神」を中心とした企業活動に、「健康」と「平和」の事業活動を加え日々進化しています。利益のみを追求するビジネスから、社会環境の整備も視野に入れたビジネスへの転換です。

そのための母体として、94年に「HNS人間・自然・科学研究所」を設立しました。

HNS研究所では、発足と同時に「一村一志運動」を提唱し、郷土の偉人達の偉業を伝える書籍の発行、日中英対訳の新版「論語」の発行などの出版・販売やセミナーの開催を通じて、平和推進活動を行っています。

また、鳥根県の米子市にある30ヘクタールの土地を使い、平和の大切さを訴える「平和公園」の建設を構想し、もっか準備にかかっています。

もう一つ、中国山東省の棗莊市で育った樹齢100年以上の「石榴」の販売も予定しています。棗莊市は、ギネスブックにも認定された世界一の石榴の産地であると同時に、先の大戦で激しい抗日の闘いが展開された地です。

この石榴の販売は、棗莊市との独占契約に基づくもので、HNS研究所の活動が認められた成果でもあります。

これらHNS研究所の活動が新しいビジネスの種となり、その新しいビジネスがまたHNS研究所の活動にもつながる。小松電機産業とHNS研究所は、そんな“クルマの両輪”の関係を目指しながら、21世紀の活動を展開していくことを考えています。

ナレッジ Knowledge management マネージメント

競争と共生の共存

小泉八雲をはじめ、多くの名だたる文人が賞賛を惜しまない、その美しさ。
ヤマトシジミ、スズキ、ワカサギなど、
七珍に代表される魚貝類に恵れた、その豊かさ。
全国的にも稀少な汽水を湛える神秘のみずうみ栄道湖も、
近代化によって、少なからず汚染という悲劇を
余儀なくされています。
だからこそ、互いの能力を出し合い高め合いながら、
清らかな水質を取り戻すための技術開発が求められています。
私たちは、一人ひとりが個人としてもっている知識やノウハウを出し合い、
互いに利用できるような環境づくりを目指しています。
つまりは、知の共有化、そして、進化が可能になる場を整えることです。
資金と人材とを集中的に投入できるフィールドをつくるのが
事業の在り方であり、フィールドを整える事業こそが、
私たちの目指すナレッジ・マネージメントなのです。
環境という事業を通し、私たちを取り巻く、
この風土、この歴史、この自然環境を追い風にして、
人類が蘇生化・進化できる産業の育成を目標に、
新しいフィールドと社会を整える
大切な役割を果たしたいと願っています。

Surroundings

Business

Knowledge management



21世紀を拓く 環境観光産業の 創造

Knowledge management

伊勢神宮と並び称され、財福の神・縁結びの神としてあまりに有名な出雲大社。湖水に沈む夕日がことのほか美しく、小泉八雲や島崎藤村など訪れた多くの文人が賛美の言葉を贈る宍道湖。出雲地方を語るとき決して欠くことの出来ない、いずれも尊い私たちの誇りです。



●松江フォーゲルパーク



●ルイス・C.ティファニー庭園美術館



●松江城



●大山スキー場



●燕趙園



●海水浴場



●出雲大社



●玉造温泉



湖と山、海と川、すべての自然に愛される癒しの地です。そして、特色ある歴史が脈々と連なり、優れた文化が華々しく育まれています。

小松電機産業が本社を置く松江市周辺は、湖と山、海と川、すべての自然に愛される癒しの地です。そして、特色ある歴史が脈々と連なり、優れた文化が華々しく育まれています。古来より大勢の人々の参詣を迎える出雲大社。その道中の疲れをほぐすかのように湧く、玉造を代表とする数々の温泉。松江城の天守閣より見晴らす宍道湖畔には、ティファニー庭園美術館を有する松江ウォーター・ヴィレッジと、松江フォーゲルパークが新しい活気を生み出しています。さらに東方へとエリアを伸ばせば、広大な日本庭園と膨大なコレクションで知られる足立美術館や、国内有数の漁獲量で潤う境港。中国地方最高峰の大山には屈指のゴルフ場やスキー場が点在し、東郷湖畔には中国庭園として国内最大級の規模となる燕趙園が広がります。私たち小松電機産業のふるさとは、人々を歓迎し、心から楽しませ、新しい出会いを創造する素晴らしい条件が整えられています。自然と歴史と文化が健やかに融合するこの環境こそが、21世紀を拓く環境観光産業の極めて貴重な要素となっているのです。

類いまれな出土量の多さと貴重な学術的価値によって、国宝に指定される斐川町荒神谷遺跡の青銅器。それは弥生時代、米作りと共に朝鮮半島から伝わった非常に高度な技術によるものでした。ここ島根県には、遙か太古の昔より営まれた大陸とのさまざまな交流の歴史が、大きな足跡として鮮やかに標されています。

会社概要

社 是：社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう
 経営理念：おもしろおかしく楽しく愉快地

社 名 小松電機産業株式会社

本社住所 島根県松江市乃木福富町735-188 松江湖南テクノパーク内
 TEL0852-32-3636 FAX0852-32-3620

創立年月 1973年2月

設立年月 1981年12月

資本金 1億円

従業員数 86名

代表者名 小松昭夫

年 商 42億

ホームページアドレス <http://www.komatsuelec.co.jp>

事業所 (工場・営業所)

HNS研究所 東京都港区虎ノ門5-13-1虎ノ門40森ビル9階
 TEL03-5408-7518 FAX03-3435-1238

東京支社 東京都港区浜松町1-18-13高桑ビル5階
 TEL03-3431-3841 FAX03-3431-4665

大阪営業所 大阪府東大阪市中新開2-6-37 COMPLAZAアーチャー
 TEL0729-60-0260 FAX0729-67-1873

八雲事業所 島根県八雲郡八雲村大字東岩坂180
 TEL0852-54-1847 FAX0852-54-1960

熊野工場 島根県八雲郡八雲村大字熊野830-3

●事業内容

シートシャッター「門番」と上下水道計測・制御・監視システム「やくも水神」を全国展開。94年HNS人間・自然・科学研究所設立。21世紀型産業創造を推進。

会社沿革

- 1973年 現代表取締役 小松昭夫が小松産業として個人創業
- 1981年 社是：「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」制定
小松電機産業株式会社を設立
- 1985年 高速シートシャッター「門番」を開発、発表。全国展開へ
- 1990年 熊野大社事業所竣工
- 1992年 韓国企業「東友FA」とシートシャッター製造業務提携
上下水道自動制御・監視システム「やくも水神」開発、発表
東京支社（東京都港区浜松町）開設
- 1994年 HNS人間・自然・科学研究所設立、「一村一志運動」提唱
「神在月縁結び全国大会」開催
「人と水シリーズ1」郷土の偉人、周藤弥兵衛の小説・児童文学・漫画を刊行
集落排水計測・制御監視システム「ニューやくも水神」を開発、発表
- 1995年 やくも水神が科学技術庁「注目発明選定証」を受証
「パッケージ水神」開発、発表
- 1996年 HNS研究所「中海本庄地区の未来構想」シンポジウム開催
ダイヤモンド社出版・森清著「母なる中海」を刊行
- 1997年 シートシャッター5万台出荷達成
- 1998年 松江湖南テクノパークに新社屋（研究棟・工場棟）建設、竣工
「人と水シリーズ2」郷土の偉人、清原太兵衛の小説・児童文学・漫画を刊行
- 1999年 「太陽の国IZUMO」特別シンポジウムを松江くにびきメッセ国際会議場で開催
- 2000年 早川和宏「魔法の経営」サンワコーポレーションより出版
大阪営業所開設
「新水神ネットワーク」及び「新中継ポンプ制御盤」を発表
- 2001年 HNS研究所主催で中国を訪問





本社2階会議室



本社1階大会議室



本社1階会議室



本社2階事務所



エントランスホール



本社和室



コミュニケーションルーム



バーラウンジ



工場全景

今の世の中で、人々が楽しく愉快地に暮らすことに役立つ企業をつくる。あるいは、そのような企業とパートナーとなる。

将来を託せる
バックアップの充実 **K**

今の世の中で、人々が楽しく愉快地に暮らすことに役立つ企業をつくる。

社員一人ひとりが楽しく愉快地に暮らせてこそ、世の中に役立つ企業の基盤が固められるという考えから、コミュニケーションを図る空間と雰囲気大切にしています。宍道湖を眺めるバーラウンジやミーティングルーム、あるいは日本的な囲炉裏の間など、ふれあい話し合いながら社員間の信頼を築き、その心地よい環境の中で生まれる新しい発想や奇抜なアイデアを受け入れ、個性を伸ばせるよう配慮しています。そして、各種社会保険制度の充実はもちろんのこと、グローバルズムを身につけるための海外研修にも力を注いでいます。また、男子寮・女子寮、さらには支社・営業所を置く東京及び大阪においても、安心して勤務できるよう快適な社宅を完備しています。



強力なネットワークを創造しながらパートナーとの信頼を築く。

顧客管理及び販売・サービスに関わる全ての窓口として、1992年10月、北海道・東北・関東・信越エリアの統括として東京支社を開設。次いで2000年8月、中部・北陸・近畿エリアの統括として大阪営業所を開設。それぞれが、営業活動及び販売促進活動を通じて商品やサービスの認知度を高め、顧客を創造・維持することを最も重要な活動としています。そして、市場調査と分析に基づいて戦略を策定し、継続的に売れる仕組みを構築しながら、代理店を強力にサポートしています。さらに、2001年8月には、東京本部と人間・自然・科学研究所を港区虎ノ門の森ビル9階に開設。恒久平和のための知的共有財産「新たな文化の創造」の提案を役割として、本格的な活動に着手しています。





人々の幸せに本当に役立つ商品であれば、必ずやマーケットの側が気がついてきます。



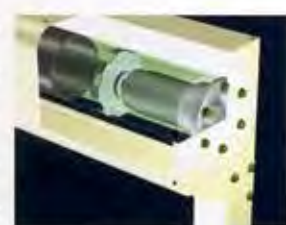
次代を創る
テクノロジーの集結 **K**

門番

EXCELLENT
MONBAN
KU WUseries
KU11 / KU21 / KU25 / KU30 / KU40 / KU50 / WU30 / WU40

高速自動開閉と特殊シートにより防虫防塵効果抜群。門番は製品の品質アップと省エネに貢献します。

安全で清潔な作業環境と省エネを実現し、製品の品質向上と経費節減を可能にした、画期的なシートシャッターです。速度はスチールシャッターの約20倍。1時間あたり100回の高速自動開閉に耐える耐久性。さらには、開口高設定機能の併用により、出入口の開放時間を短縮。屋内の空調効率を高め、屋外からの異物混入を最小限に抑えるとともに作業効率の向上を約束します。その実力は、業界No.1を誇る販売実績が証明しています。



集落排水計測・制御・監視システム

yakumo やくも Suishin 水神

iモード・インターネットで施設を制御監視。上下水道施設にかかるコスト削減と管理効率のアップを実現します。



最新の情報技術を元にインターネットと融合させ、より低コストで効率的なネットワークを実現した上下水道計測・制御・監視システムです。iモード・パソコンで迅速に施設情報がキャッチでき、現場機器の遠隔操作をも可能。高コストの主要因になっている過大で高価な監視装置は一切不要です。上下水道設備のIT化を通じて施設管理の効率化と住民



負担の軽減を図るうえ、管理技術の養成を行い、IT産業創出を入れて



新しい新たなと雇用のも視野に入ります。

グローバル

Glocal

ローカルからグローバルへ

1981年、私たちは「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」を社是に制定。
ローカルからグローバルへの展開を目指しています。
今後ますますネットワーク経営の様相を呈する時代に、
あくまでも拠点は地元を根ざし、
種々な企業と提携し、全世界に広がっていく。
それが、私たちの目指すグローバルです。

たとえば、当社の主力商品である高速シートシャッター「門番」は、
発売当初、マーケットのまったくないローカルな商品でした。
しかし、人々の幸せに本当に役立つ商品であったからこそ、
コマーシャルに膨大な資金を費やすことなく、
安い値段で多くの人々のお役に立つことが実現できたのです。
現在、シートシャッターの国内シェアは約50%。
アジアはもとより、世界へとマーケットが拡大しています。
また、スタッフの総力を結集させて完成させた「やくも水神」は、
人類への有益性という目的を持つ価値ある商品であったからこそ、
開発に必要なものは、世界中から集まって来ました。
たとえば、全ての情報をタッチパネル1つで操作できる装置は台湾から。
コンピュータの心臓部はドイツから、というように。
常に私たちは、地球的スケールで発想し、地域での事業に力を注ぐ、
新しいグローバルの未来を見据えています。

Think Globally, Act Locally



蘇

生

Resurrection

天寿が全うでき、楽しく愉快に、持続的に生きられる地球社会の創造を目指して。



東莊市の石榴園は、世界最大の石榴園として2001年にギネスブックに認定されました。

諸外国との絆を創り深める
文化経済交流

HNS

人間と自然と科学の関わり合いを通して、
未来を創造するために、原点を見つめる。

優れた社会基盤—。高度な科学技術—。深遠なる智恵—。
人類は、こうした数々の素晴らしい遺産のうえに生かされています。しかし人々の心の中には、争いという不幸から生じた未解決のままとなっている負の遺産が残されていることも、また明らかな事実です。



小松電機産業の人間・自然・科学研究所は、この負の遺産に真正面から向き合い互いに共有し、社会的背景を研究して活動する中から、新たな文化を創造することを使命として、1995年4月設立されました。その原点には、人間と自然と科学の関わり合いを通し、未来に続く本物の価値を創造するべきであるという考えがあります。



平和・蘇生・健康をキーワードとする当研究所のコンセプトは「祈り」であり、自然環境の過酷な瓦礫の地で育つ「石榴」をそのシンボルに掲げています。岩のミネラルと太陽のエネルギー

をたっぷりと蓄えて育つ石榴ほど、人間に必要なカルシウムを豊富に含む植物は、他に類がないといわれます。動物性のカルシウムを上手く体内に摂取できない私たち日本人にとって、この石榴との出会いは必ずや素晴らしいものになるに違いありません。荒れ果てた地を蘇らせるように豊かに育つミネラルいっぱいの石榴は、世界の恒久平和を願い活動する当研究所の姿勢に、まさにふさわしいものなのです。日本人で初めての韓国独立記念館への寄付—。かつてない大旅行団となった訪中文化経済交流団の主催—。中国人民抗日戦争記念館への献花—など。負の遺産を昇華させ、感激と感動に替えるためのプロセスがスムーズに進行するための環境を整える活動は、まだ始まったばかりです。



世界を恒久平和へ導く活動は、「一村一志運動」から「論語の出版」へ。

世界中が人類未踏の困難な時代の到来を予感する今、「恒久平和を生み出す新たな文化創造を目指して」をスローガンに、2002年2月、日本語・中国語・英語の3カ国語で対訳される「論語」の出版を行いました。なぜなら、世界で唯一、半世紀にわたって平和憲法を守り、被爆体験を伝えてきた日本にこそ、文化間の対話と協力が生まれる場を創造する役割があると考えるからです。1988年のノーベル賞受賞者バリー宣言においては、「人類が21世紀に生存していくには2500年前を振り返り、孔子から知恵を探す必要がある」と述べられました。また、1999年には、孔子生誕2550年を記念して北京で開催された儒学と21世紀の人類社会の平和と発展シンポジウム(17カ国参加)で、「孔子の理念と教えが現在の諸問題解決に知恵を与える」ということが確認されています。この言葉を確かな裏付けとして、当研究所の「論語」出版が、世界の恒久平和へとつながる新たな行動のきっかけになることを願っています。



古来、日本は瑞穂の国と形容され、水田稲作によって独特の文化を育んできました。しかし、緑の山々がそびえる国土は傾斜地が多く、稲作の歴史は水害との闘いの歴史でもありました。こうしたことから、治水事業に生涯をかけた多くの偉人が、全国各地に生まれていくことになったのです。今日の豊かな生活を築いたその尊い志を後世に伝え、次代を担う人々の指針とするために、当研究所は発足と同時に「一村一志運動」を提唱し、その偉業を伝えるための出版事業を行っています。まず最初にスポットを当てたのは、40年以上の歳月をかけ自力で岩山を切り割り、洪水から村を救った郷土の偉人・周藤弥兵衛です。小説・児童文学・漫画の3部作の形で出版し、「周藤弥兵衛シンポジウム」を開催しています。国内に1千名を超えるといわれる偉人たちの発掘と紹介は、現在、清原太兵衛、大梶七兵衛と続き、全国へ広がろうとしています。



●2002・大梶七兵衛 ●1998・清原太兵衛 ●1995・周藤弥兵衛

この他にも、当研究所の提唱は数冊の書物となり出版されています。1997年5月には、海水と淡水が混じり合う世界的にも有数の資源である中海を利用し、自然と人間が溶け合った21世紀の新産業創造の提唱を記した森清著「母なる中海」(ダイヤモンド社刊)。1999年7月には、12年の歳月を費やして、不安を安心に一、不満を満足に一、怒りを喜びに一、そして危機をチャンスに変えるべく構想されたプロジェクトである地球ユートピアモデル事業を提唱する「太陽の國IZUMO」。さらには、小松電機産業社長である小松昭夫の経営哲学を解いた早川和宏著「魔法の経営」(サンワコーポレーション刊)などです。



21世紀の国際共生社会へと通じる扉は、ふるさと出雲で創られ、そして開かれる。

ここ出雲は、朝鮮半島の対岸に位置する大陸・半島文化の上陸点であり、奈良・京都に文化の花を咲かせた日本文化の出発地点として、縁結びの国とされていました。こうした歴史的・地政学的な観点からも、豊かで生き甲斐のある21世紀社会のモデルを提供する聖地として、ふるさと出雲がふさわしいと考えています。そして、日本と関わりがあった国々のすべての戦没者の慰霊と、平和への誓いを表明する「恒久平和祈念碑」を中海・宍道湖圏に建立することを提言しています。また同時に、朝鮮半島の対岸に生活する私たちが、現状を打破し未来に対して何をすべきかを考えようと思います。その第一歩となるのが、国際問題にもなっている「日本海」と「中海」の名称入れ替えの提案です。この活動をきっかけに、議論の輪が広がり、出雲から大きなうねりが起き、未来に希望の持てる社会創造に向けて歩み出せることを祈っています。そして、研究・構想・調査・企画・設計・建設・運営というプロセスの中で、理念に共感する人々のネットワークが構築され、21世紀の国際共生社会への扉が開かれることを望んでいます。



HNS人間・自然・科学研究所のあゆみ

- 1988年 4月 島根県商工会とタイアップ、若手経営者20名で「知革塾」をスタート
- 1989年 6月 異業種7社で、協同組合「テクノくにびき」設立
- 1990年 10月 韓国企業「東洋技研」と「シートシャッター門番」の業務提携
- 1991年 1月 中小企業研究センター賞受賞(社団法人中小企業研究センター)
- 1991年 10月 ニュービジネス大賞受賞(社団法人ニュービジネス協議会)
- 1993年 1月 「国際経営者協会」(東京)で講演
- 1993年 1月 地域社会貢献企業者賞受賞(日刊工業新聞社)
- 1994年 11月 「神在月縁むすび全国大会」開催
- 1995年 4月 HNS人間・自然・科学研究所設立「一村一志運動」提唱
「治水の偉人・周藤弥兵衛」(漫画・児童文学・小説)出版
「周藤弥兵衛シンポジウム」開催
- 1995年 4月 第54回注目発明選定証受証(科学技術庁)
- 1995年 6月 世界的マクロバイオテック指導者・久司道夫氏を迎え
「人と水と食のシンポジウム」開催
- 1995年 11月 「第一回神在月縁むすび世界大会」開催
- 1996年 3月 地域活性化貢献企業賞受賞(日本経済新聞社)
- 1996年 5月 「中海・本庄工区の未来構想」シンポジウム開催
- 1996年 9月 島根県警察本部「島根県警察トップセミナー」において講演
- 1997年 3月 「第二回神在月縁むすび世界大会」開催
- 1997年 5月 「母なる中海」ダイヤモンド社より出版
- 1997年 6月 韓国独立記念館を訪問、献花ならびに懸賞書と100万円を寄贈
- 1997年 11月 「東京ビジネス・サミット」で講演
- 1998年 1月 「治水の偉人・清原太兵衛」(漫画・児童文学・小説)出版
「清原太兵衛シンポジウム」開催
- 1998年 5月 中国「伝世蔵書」を島根大学に寄贈
- 1998年 7月 韓国赤十字社を通じ朝鮮民主主義人民共和国へ食糧支援500万円寄贈
- 1998年 8月 「共生文明フォーラム・混沌からの脱出」島根・東京の2会場で講演
- 1998年 10月 第三回HNSセミナー「新たな地球と生命の共生に向けて」開催
- 1999年 7月 12年の歳月をかけて構想した「太陽の國・IZUMO」出版
- 1999年 10月 「第三回縁結び世界大会」開催
プロジェクトソング「太陽の國・水の都・緑の街」発表
- 2000年 7月 「島根県小中学校女性校長教頭会」で講演
- 2000年 9月 「第一回訪中文化経済交流団」として、東荘・曲阜・済南・大連・青島を訪問
山東省との交流が始まる
- 2000年 10月 中国残留韓人をテーマとした劇「再会」上演
- 2000年 12月 米子市国土政策研究会主催「米子輪田地活用第1シンポジウム」において
「太陽の國モデル事業構想」発表
- 2000年 12月 「魔法の経営」サンワコーポレーションより出版
- 2001年 3月 社団法人・東京倫理研究所で講演
- 2001年 3月 NHKニュース「町の身近な英雄伝」で一村一志運動が報道される
- 2001年 5月 「第二回訪中文化経済交流団」80名で西安・済南・曲阜・北京訪問
「中国人民抗日戦争記念館」への献花ならびに懸賞書と100万円を寄贈
- 2001年 6月 島根県立高等学校教員長期社会体験研修で講演
- 2001年 7月 青島市人民政府副市長を団長とする6名の訪日団を米子・松江市に迎え
「中国青島市人民政府・中海宍道湖圏文化経済交流会」を2会場で開催
- 2001年 8月 島根県東部町村長会の韓国「独立記念館」訪問支援
- 2001年 8月 「第三回訪中文化経済交流団」として、瀋陽市「台兒庄大戦記念館」訪問
献花。中国「台兒庄日報」24日付1面で報道される
- 2001年 9月 東京・虎ノ門に、HNS人間・自然・科学研究所・東京事務所開設
- 2001年 10月 山東省濰州市副市長を団長とする友好訪日団を迎え、東京で交流会開催
「周藤弥兵衛・清原太兵衛」銅像発注
- 2001年 11月 第四回訪中文化経済交流団瀋陽市市長をはじめ人民政府と打ち合わせ
- 2001年 11月 第八回HNSセミナー「心と氣」孔祥林氏、楊春旭氏、楊春旭氏を迎え開催
- 2002年 2月 恒久平和を生み出す新たな文化の創造をめざして、人間・自然・科学研究所より、日中英対訳新版「論語」発刊

HNS

KOMATSU ELECTRIC INDUSTRY CO.,LTD.



小松電機産業株式会社

本社:〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-188松江湖南テクノパーク内
TEL 0852-32-3636 FAX 0852-32-3620

HNS研究所:〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-13-1虎ノ門40森ビル9F
TEL 03-5408-7518 FAX 03-3435-1238

東京支社:〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目18-13高桑ビル5F
TEL 03-3431-3841 FAX 03-3431-4665

大阪営業所:〒578-0911 大阪府東大阪市中新開2-6-37 COMPLAZA アーチー
TEL 0729-60-0260 FAX 0729-67-1873

八雲事業所:〒690-2198 島根県八束郡八雲村大字東岩坂180番地
TEL 0852-54-1847 FAX 0852-54-1960

ホームページ <http://www.komatsuelec.co.jp/>